

審議会等議事概要

平成 27 年度 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議（第 1 回） 議事概要

日 時	平成 27 年 4 月 30 日（木曜日）午後 6 時 00 分～午後 7 時 00 分
開催場所	滝川市役所 5 階 庁議室
出席者	出席：田代委員長、佐藤委員、岩田委員、太田委員、富田委員、佐々井委員 柴田委員、居林委員、渋谷委員、堀田委員 欠席：沖本委員、水口委員、今野委員、尾崎委員、船奥委員 オブザーバー：後藤校長、内海校長、阿部校長 事務局等：小田教育長、田中教育部長、小野指導参事、高田学校教育課長 西村学校教育課長補佐、鳩山新しい学校づくり推進室長、酒井係長
議 事	1 開 会 2 委員長挨拶 今年の冬は雪が少なく、桜も開花し満開で、気候的には良い年を迎えてここまでできている。会合を重ね、今回はまとめの回になろうかと思っている。お忙しい中、今日も多数の委員さんにご参加いただき、新しい委員もいらっしゃるの、質疑も十分に受けながら進めていくので、今日もご協力のほどよろしくお願いしたい旨の挨拶があった。 ・事務局より新しい委員、職員の紹介があった。 3 報告事項 ・事務局より「平成 27 年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第 1 回）」を用いて資料 6「高等学校配置計画検討資料」、資料 8「地域別検討協議会学区別検討資料」の説明を行った。 ※質疑等特になし ・委員長 オブザーバーに今年度の入学者の状況について、お話し頂きたい。 ・オブザーバー 今年は滝川市内の中学生は 88 人、全体の約 37% がうちに来ていただいた。昨年は 48% くらいだったので、前年比マイナス 10% くらい、高校としては中学校への PR が不足していたと反省をしている。全日制の普通科は 200 人の定員で現在 199 人。全日制の理数科は 40 人の定員で現在 41 名いる

ので、合わせると240人で、欠員は0になる。定時制は、13名入学した。1名が現級留め置き、1名が休学で、在籍は15人になっている。定時制は25人欠員している。

今年は11人の教員の着任があった。教員は全部で72人いるので、合計すると800人くらいで一つ屋根の下で生活をしている。

全日制は、授業日数を208日予定しており、土曜活用は6回ある。定時制は土曜活用しておらず、授業日数は200日を予定している。時数を確保するよう言われているが、綱渡りの状態で年間計画を作った。

全日制は、地域の進学校としての役割をどう果たすのかということを今年の重点目標にしている。現役国公立は45人。浪人も合わせると、55人です。去年が70人を超えているので、前年比マイナス20人以上。北大は4人で、前年が7人だったので、これもマイナス3人になっている。

定時制は、地域の生涯学習の拠点となることを今年の目標にしている。今年の1年生は13名入学したが、中学校から上がって来たのは7名くらい、あとの半分弱は、高校の中途退学者や、引きこもりだった子もいる。そういう意味で、生涯学習の拠点として定時制をこれからも存続していきたい。定時制は10人以上の合格、在籍で存続になっている。定時制があるおかげで、全日制はナイターで部活動ができる等、いろいろ恩恵もお互いに被りながらやっている状況。

・オブザーバー

当初電子機械科に定員40人のところ61人、電気科に定員40人のところ11人の応募があった。志願変更があり、電子機械科から2人電気科に志願変更があった。当日電子機械科で1人欠席があり、電子機械科58人、電気科13人で受験をした。可否については、電子機械科58人の内40人が合格、残り18人がそのまま第二希望の電気科に行き、13人プラス18人の31人が合格となった。さらに二次募集で、電気科に3人入ったので、結果的に電子機械科が40人、電気科が34人合格になった。

合格した生徒の出身地区は、電子機械科が40人の内31人、77.5%、電気科34人の内19人、55.9%の生徒が滝川市内から来ている。合わせると74人中50人、67.6%が滝川市内から入学している。あとは砂川方面、雨竜方面、芦別方面、それから深川方面などとなっている。

3月に65人が卒業した。進学、就職先関係は前回お渡しした資料で確認いただきたい。65人卒業し、74人が入学してきて、在籍数は今202人となっている。

職員の異動は5人転出し、6人転入してきた。うち新採用が2人入ってきた。新採用の複数配置においては、1人の加配があり、その1人の加配は数学の教員を当てた。今までは数学の教員が1人で授業をしていたが、数学が苦手な子が多いので、今は全ての授業をティームティーチングでしている。主の教員が授業をして、新しい先生がサブで回っている。サブの先生は期限付きなの

で、1年間限定だが、授業ではティームティーチング、昼休みと放課後は補修を行い、夏季、冬季の休業中も算数の補修を行う。

・オブザーバー

今年度の入学の状況は、会計ビジネス科が80人、情報ビジネス科が80人、普通科は当初116人の合格だったが、二次募集で2人来て、118人となり、278人である。そのうち市内の生徒は、128人であり、ここ3年程、50%を若干下回るような数値になっている。それまでは市内の生徒は入学者の50%を超えていたが、若干落ち込んできている状況である。現在の全校生徒数は、835人である。

春に卒業した生徒については、前回で資料が出ていると思うが、国公立大学に19人、道内の私大、短大に126人、道外の私大、短大12人、看護学校17人、それから専門学校が59人。就職は、公務員が11人、民間企業が43人となっている。就職については、5年連続で内定率が卒業段階で100%という実績になっている。

本校は部活動の加入率が非常に高く、今年度の状況は現在集計をしているが、ほぼ9割の生徒が部活動に加入している状況である。昨年全国大会には、陸上部、ソフトテニス部、吹奏楽、新聞局、書道の5つの団体個人が出場した。今年度も前年度以上の実績をとということで今頑張っている。

職員については、この春10人の異動があった。その結果職員の平均年齢が42歳になり、一番年齢の高い職員が51歳に今年なり、一番若い職員は30歳である。

学習全体については、普通科と商業科があることのメリットを生かしていくことを大事にし、まずは普通教育を充実させたい。ここ数年国公立、私大等を受験する生徒が非常に増えて来ているので、次年度に向けて、受験に十分対応できる体制を今以上に取り、教育課程の見直しをしている。次年度入学生、それから次年度の2、3年生についても、今一部変更ということで、考えている。

専門教育としては、商業教育の充実ということで、大学や官公庁等とも連携を取り、様々な方に来ていただき、実際の社会で起きていることなどについて、勉強させたい。本日も、SBMCコンシューマーファイナンスの方が見えて、3年生にローンやクレジットについてという授業をしていただいた。このような活動を通して思考力や判断力をしっかりと身に付けさせ、課題解決の能力を身に付けさせたい。

検定試験等も、ライセンスの取得については、ここ数年増加傾向にある。商業教育を学んだ生徒も、今年度も国公立に5名が入っている。そのような意味で、普通教育と専門教育を充実させながら、間をキャリア教育という形で結び、それぞれの子ども達がどの学科で学んでも、将来をどのように組み立てて行くかということをしっかり学べるような体制をとっている。

今年度、文部科学省から、スーパーグローバルハイスクールアソシエイトの

指定を受けた。この指定を受けているのは、中高一貫校や進学校であり、道内でも私立の中高の学校がこの指定を受け実施をしている。残念ながら本指定は得ることできなかったが、アソシエイトということでスーパードグローバルハイスクールの仲間として、英語や商業のアクティブラーニングを中心としながら、今年度も学校を組み立てていきたい。

※質疑等特になし

4 協議事項

- ・委員長より、これまで3回の会議の内容を説明した。

- ・事務局より「滝川市内高等学校のあり方に関するまとめ（案）」を用いて説明を行った。

本市民会議は、昨年8月に再立ち上げし、今後も続くということで、報告書という形ではなくて、今まで検討してきた会議の4回のまとめという形で文章化した。中卒者が減っており、道教委では6～7間口、平成30年～33年を見通して、それを実際に各市町の高校に当てはめた時、30～34まで滝川市では2、砂川1、奈井江1、芦別1、深川1～2が考えられると話をしたが、砂川については、既に1減となってしまった。その後、中卒者の減少で、北海道教育委員会の方針により平成30年度における市内高校の定員調整は避けられないと先程委員長からあり、みなさんご理解とかやむを得ないという次第となった。市内3校の中では、滝川西高校で調整することとなった。これについて、前回の資料を2枚程度にまとめて最後の結論とした。長くなりますが、最初から読ませていただく。

「滝川市内高等学校のあり方に関するまとめ（案）」の説明を行った。

学科については、学科の構成に時間がかかることから、今後1年あるいは1年半程度かけて、検討していきたい。

- ・委員長

これまでの会議の経過を踏まえること、そして、背景ということで少子化、北海道教育委員会の方向性、市内高校のあり方ということで、3校の特色、中卒者の動向、近隣の状況を勘案した上で、平成30年度における市内での定員調整は避けられない。定員調整を行う学校については、滝川西高で行うとの提案である。また、学科については、滝川西高において、学科転換も視野に入れながら、今後検討するということになった。さらに平成31年度以降については、中学校卒業生の減少によりさらなる定員調整が考えられることから、引き続き検討するということで説明があった。滝川西高での定員調整の是非、表現方法にいて、質問、意見を伺いたい。

・委員

オブザーバーの説明を伺い、それぞれの特色について理解をさせていただいた。また、「滝川市内高等学校のあり方に関するまとめ（案）」についても理解をしたが、結論から言うと残念だなというのが正直な気持ちである。

1点は、表現法の問題なので、私の読み方の違いかもしれないが、「以上のようなことから、市内の教育水準の維持・向上や教育の機会均等を図るために」という段落があるが、滝川西高校が市内の教育水準の維持・向上や教育の機会均等を妨げていると読み取れるのではないのか。ここはストレートに、「以上のようなことから定員調整を行う学校については」とした方がいいのではないか。定員調整をするのは反対だが、この方がストイックに伝わる気がする。

もう1点は、定員調整という文言が各所にみられるが、高校の定員という考え方について。義務教育では30人であるとか35人とか議論がよくされている。これは教育的価値があるというスタンスにあるものと考えているが、高校でもそういったことが考えられていいのではないか。ただし、1クラスの人数が減ったから教育効果が上がったのか、逆に、1クラスの人数を増やしたから教育効果が上がったとか下がったとか、そういうデータについては無いだろうと考えている。今後色々な教育システム、教育内容、教育方法といったものが変化していく中で、どんどん各関係機関から提示されてくるが、相変わらず定員については、40人であるというこの考え方についてはいかがなものか。以上感想も混じえて、発言をさせて頂いた。

・事務局

今の2ページ目の表現について、表現にもよるが、西高が妨げているという意味はもちろんなく、逆に言えば、西高が引っ張っている。他の委員さんからも、意見を伺いたい。

・委員長

「市内の教育水準の維持・向上や教育の機会均等を図るため、定員調整を行う学校については」この部分についてはいかがか。教育水準の維持・向上を図るために定員調整するのではなく、少子化という部分が大きな理由であり、教育の機会均等を図るためにという部分についても、教育の機会均等だから定員調整をするというわけでもないのか、ここは不要ではないかと思うが、いかがか。

・委員より賛成の意見あり。

・委員長

では、ここを削除します。次2点目お願いします。

・事務局

高校における少人数制については、道内でも少人数制でやっているところがあると、伺っている。全く不可能という訳ではないと思っている。前日も、委員からもそういう話があった。道立高校は色々な条件や限定的な実施しかできないと思うが、市立高校は市の考え方になるので、この先、調査をしながら、教育効果を含め、検討できるものかどうか、検討課題だと思う。

・委員長

ありがとうございました。よろしいか。

・委員より賛成の意見あり。

・委員長

今のご意見も含めながら、滝川市内の高等学校のあり方に関するまとめについて、ご了承いただいたということでよろしいか。

※質疑等特になし

了承いただいたということで、よろしくお願いします。特に西高については、学科転換も視野に入れながら今後検討するということになる。

5 その他

・委員長

委員の皆様から何かないか。

※質疑等特になし

事務局から何かないか。

・事務局

ただ今のまとめについて、皆さんにご了解を得たということで、先程の箇所は訂正し、改めて出来上がったものは皆さんに配布したい。委員会としても、教育委員に、今までも会議の都度報告をしている。また、教育委員協議会という会議があり、その中でも高校の定員調整のあり方についても議論頂いている。最終的なまとめということで、来週早々には教育委員会議を予定しており、このまとめを受け、滝川市としても西高の定員調整について議論いただき、進めたい。それが決まった暁には、北海道教育委員会に、平成30年度の滝川市における定員調整は、滝川西高校でと協議報告したい。道教委では、例年であれば6月の中旬には、公立高等学校配置計画案の平成28年度～30年

度に滝川西高等学校で定員調整 1 学級減と示される。学科については、検討中ということで、今後 1 年ないし 1 年半程度かけて、滝川市教育委員会と協議をする。現在の中学校 1 年生が 30 年度の入試にかかり、遅くとも中学校 2 年生の秋には進路も具体的な段階に入ってくるので、例年高校配置計画は、6 月に案が出て、その後地域別検討協議会等道民の皆さんの意見を聞いて、9 月に決定という形になるので、遅くとも平成 28 年の 9 月までには決定という形になると思う。また、会議は今回で終わるということではないので、今後年間 2 回あるいは 3 回程度開催したいと思っている。その際には出席いただき、意見等をお寄せいただきたい。

6 教育長挨拶

新しく作った検討市民会議 4 回の議論を経て、今日一定の結論をいただきありがとうございました。

市立高校を持っている市が判断をしないと、北海道教育委員会は道立高校の定員調整をすることになるので、市としてどうするか、主体的に判断をしていく必要があり、今回のまとめとさせていただいた。学科については、確定をしていないので、この会議もまだ続く。西高の協議の内容結果となるが、これから子ども達が進路を決める際に、重要なファクターになると思うので、その時にはまた改めて、会議で報告、説明をさせていただきたい。中学生の立場からすると、定員調整となると間口が狭まってしまい、行きたい高校に行けなくなるという感覚になるかもしれない。中学校の校長先生、保護者の方もそう感じるのは無理もないことと思うが、高校がゴールではない。高校卒業後、就職あるいは進学した際に、どれだけ子ども達が社会人として幅広い知識や技能を持っているか、持たすことが出来るかを考えた時に、高校がどういう形であるべきなのか。子どもたちにとっては厳しい結論かもしれないが、この市民会議でのまとめということでご理解いただければ幸いである。

また、具体的な滝川の中学生の卒業先があったが、現在、市内あるいは空知北学区の中学校の卒業生については一定のまとめをしている。今年度中学校を卒業した 360 名の内、市内の 3 校に進学したのは 266 名、約 75% で、2 割弱は空知北学区内での進学となっている。空知北学区全体を見ると学区外への進学は 80 名くらいいるが、滝川市内においてはまだそういう状況ではない。滝川市内の子どもたちに限って言えば、普通科、理数科、商業、工業、そして定時制、新十津川農業高校の農業科を含め、選択肢が広く確保できているおかげと思っている。是非この体制は維持していきたいということを 2 つ目のまとめとしてご理解いただきたい。遅い時間まで議論いただき本当にありがとうございました。

7 閉 会

会議資料	○「平成２７年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第１回）」 ○「滝川市内高等学校のあり方に関するまとめ（案）」
-------------	---